

「葬送のカーネーション」

2022 年製作 / 103 分 / トルコ・ベルギー合作
劇場公開：2024 年 1 月
ベキル・ビュルビュル監督作品

2022 年東京国際映画祭「アジアの未来」部門では「クローブとカーネーション」のタイトルでワールドプレミア上映された作品です。

監督のベキル・ビュルビュルは、日本の小津安二郎監督を敬愛し、最初の映画祭を日本に選んだと述べています。



亡き妻を埋葬するため棺を運びながら、歩き続ける老人とその孫娘の旅はロードムービーというには、多くの背景を秘めています。老人はトルコ語が話せませんし、トルコ語の通訳は出来るが、ほとんど喋らない少女の旅。映画の前半は、ほとんどセリフはありません。最初に会おう羊飼いはろうあ者です。観客はセリフで説明されない世界と対応していくしかないのです。

次第に、言葉を話す人と出会うようになりますが、分かりやすくしようとする観客へ説明はありません。でもよく考えると、日常を引きずって映画を観る観客に、本作を感じてもらおうための、ある種の方法論とも言えます。

少女の描くスケッチ画や不可思議な夢の描写、いきなりの雪景色、乗せてもらったトラックを運転する親切な女性の言葉やトレーラーのラジオから聞こえる言葉など、小出しにされる情報から観客が映画の世界を次第に理解していく形式です。

少女には何故、両親がいないのだろう？シリアの内戦にも関係があるのかも知れません。彼らは難民としてトルコに来たのかも知れません。

そして、観客の多くが解釈に苦勞するラストシーン。少女が越えられない国境のフェンスから見える世界は？

この映画を完成させるのは、観客の皆さんです。どうぞ、ご自分の解釈をお楽しみください。

本作で出会う言葉

- 一生は短いさ。気づいたら終わってしまうものだけど、ただ穏やかでいることが大切なんだ。
- リンゴを食べて種を埋めたら、いずれ大きな木になるだろ。私たちも地面に埋められて来世に行ったら大きな木になるのよ。今は冬、草木は枯れていても初夏の祝祭の頃には息を吹き返し、みんなで楽器をかき鳴らし食べたり、踊ったりする。
- 星の光が届くのに 5 千年かかるなら、5 百年後に忘れられる本を書く我々人間の行動の意味を考えてみたい。
- 仮にあなたの子孫が 1000 年続いたとしても、誰もあなたに感謝しないし、そもそも認識すらしない。



ベキル・ビュルビュル監督

長編デビュー作「MY SHORT WORDS」(2018)も30以上の映画祭で上映され、多数の作品賞を受賞。イランの映画祭で国際審査員を務めた経験もあり、本作は長編2作目となる。



熱帯地方が原産のクローブは、中国では「チョウジ」と呼ばれ、漢方薬として重宝される。香りがカーネーションに似ている。



デミル・パルスジャン
1950年イスタンブール生まれの、広告、映画、テレビシリーズの俳優。



シャム・セリフ・ゼイダン

2010年シリア生まれ。戦争のため2017年にトルコに移住。現在はネヴシェヒル・カッパドキア地域に住んでおり、現地の学校で学び続けている。